

令和4年2月吉日

関係者各位

むぎのめ子ども発達支援センターりんく  
園長 大迫 より子

## 「児童発達支援自己評価」(保護者向け)の結果について(報告)

梅花の候、皆様におかれましては、ますますご健勝にてお過ごしのことと拝察いたします。

さて、当事業所に通園している保護者の皆さまのご協力のもと、保護者による自己評価を過日実施いたしました。

その中のほとんどの項目で、概ね高い評価をいただき、「休日に『なんで今日りんくくないの?』と言うほど毎日楽しく通園しています」「子どもの成長・変化が目に見えて喜んでいます」「たくさん先生に助言いただき、安心することができている」等の声を寄せていただきました。

周知が必要ことや課題となるご意見として、『9:保育所や認定こども園、幼稚園との交流や障害のない子どもと活動する機会(以下⑨の項目)』『15:父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか(以下⑮の項目)』『16:非常時の災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか(以下⑯の項目)』の項目について、「わからない」「どちらともいえない」「いいえ」の回答が多く寄せられました。

⑨の項目についてですが、当園は、認可保育園である「むぎっこ保育園」が隣接しており、日常的に母子分離グループを中心に、園庭を共有していることで、療育・保育園双方の子ども同士の関りが自然に生まれ、職員間でも子ども同士をつないだり、ひとつのあそびを一緒に遊んだりといった連携が図られています。年長児においては、保育園への体験交流も行いました。今後も、更に日常の中で交流を持てる機会をつくっていけるように努めていきたいと思っております。

⑮の項目ですが、毎月1回の運営員会の中で、親の会の取り組みについて話し合い、よりよい運営ができるようサポートに努めています。今後も引き続き、活動内容や準備、今後の見通しなどをわかりやすくお伝えできるような工夫をしていきたいと思っております。

⑯の項目ですが、法令に従い母子分離グループの子どもたちと職員で避難訓練を毎月実施しています。0歳や1歳といった低年齢児の多い親子グループでは、子どもたちにとってりんくが安心の場であり続けるために、通常の避難訓練とは別の形で訓練を実施しています。

今後も、保護者の皆さまの要望やご意見を伺いながら、親の会とともによりよい中身づくりに努めていきたいと思っております。

今回はお忙しい中、自己評価へのご協力ありがとうございました。今後もこれまでと同様、よりよい実践と事業所運営に取り組んでいきたいと考えておりますので、忌憚のないご意見とご協力をよろしくお願いいたします。

保護者等からの事業所評価の集計結果(公表) 【児童発達支援】

公表:令和4年2月24日

事業所名:むぎのめ子ども発達支援センターりんく 保護者等数(児童数) 22 回収数 20 割合 90 %

	チェック項目	はい	どちらともいえない		わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
			はい	いいえ				
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	21				・部屋だけでなく、廊下、園庭など子どもが思いっきり走り回り遊べている。	基準以上の空間を確保して活動しています。今後も子どもたちが安心して思う存分活動できる空間を保障していきたいと思えます。	
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	17	2		2	・子どもの人数に合わせ、職員の数も増やしていただいたり、専門性も適切であると思う。 ・職員が増えたらいいと思いますが、配置数については詳しくわかりません。 ・親子グループは、最近人数が増えてきているので、少ないと感じることがある。 ・職員の配置数を確保するのに活動時間が減っているのかな?と思うことがある。療育時間をもっとあればと思った。 ・何も知らないので...でもすごく良くしていただいています。	法令に従い児童発達支援センターの基準以上の職員配置を行っています。今後も専門性を高め、子どもの発達支援に従事していきます。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境 i になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	21					・トイレに消毒があるとよいと思います。便座やオマールに使用できるので。	これまでトイレには消毒スプレーを設置しておりましたが、新たに除菌シートを設置しました。引き続き、子どもの実態に応じ、子どもの生活導線に即し、子どもの主体性が促されるような環境設定を大事にしていきたいです。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	21					・教材庫が不足し、教材がしまいきれていないため、増やしてほしい。 ・コロナ禍で特に清潔に気をつけてくださっていると感じました。	昨年度、新たに棚を設置し、教材等はそちらにしまうようにしていますが、当日使用する教材をタイムリーに出せるよう廊下に出している場合があります。子どもの安全に気をつけていきたいと思えます。
適切な支援の提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画 ii が作成されているか	18	1			・子どもの有する能力に合わせ、支援の具体的な内容が作成されている。	支援計画については、面談や保護者からの聞き取り等で得られたニーズや課題、子どもの状態像を把握したうえで発達段階や発達要求等、客観的に分析した支援計画を作成しています。	
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	17	1		2	・設定されています。	子どもの支援に必要な項目を記載し、できるだけわかりやすく具体的な支援内容を心がけています。今後も児童発達支援管理責任者を中心に、具体的にわかりやすい個別支援計画づくりに努めます。	
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	18			2	・定期的に児童発達支援員の指導がある。 ・個々にあわせて支援が行われている。	今後も児童発達支援管理責任者を中心に、計画に沿った支援がなされているか、確認や検討もしながら取り組みます。	
	8 活動プログラム iii が固定化しないよう工夫されているか	16	2		2	・プログラムⅢがわかりません。 ・柔軟に組み合わせて実施されている。	今後も子どもの発達や実態、季節や年齢に即したプログラムを日々の子どもの姿をもとに検討を行いながら、実践を展開していきます。	
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	12	5	1	3		認可保育園が同一敷地内に隣接しており、園庭あそびを共有したり、合同で行事(人形劇)をしたり、避難訓練を合同で行っています。年長児は交流保育を行っています。また、日常的に子どもたちが行き来し、小さな交流が生まれていますので、その様子を発信するなどの工夫もしていきます。	
保護者への説明等	10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	19	1		1	・説明されています	今後もわかりやすい説明を心がけ、気軽に質問もできるように努めます。説明後もわからないことがあれば気軽にお尋ねください。	
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	20				・説明されています。	今後も活動のねらいや意図も含め、支援内容をわかりやすく説明できるよう努めます。	
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニングiv等)が行われているか	20				・勉強会、ありがとうございます。 ・子どもへの接し方、行動特性の理解を学ばせてもらっています。	例年は、母親、父親への学習会はもちろん祖父母を対象とした学習会を実施していましたが、今年度はコロナウイルス感染予防対策のため、少人数のグループごとの学習会の開催となりました。今後も子ども理解や家庭生活が充実できるよう、丁寧に取り組んでいきます。	
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	21				・情報を密に伝え合っていると思う。	今後も細やかな変化にも気づけるよう、家庭生活の様子を把握し、また療育での様子も具体的にわかりやすく伝えることを心がけ、共通認識できるように努めています。	
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	19			1	・行われている。たくさん先生に助言いただき、安心することができている。	学期に1回の頻度で面談を行っています。また、毎日の生活記録表や保護者とのやりとり等で育児への不安に対し助言や支援をします。今後も丁寧に取り組んでいきたいと思えます。	
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	14	4	1	1	・コロナにより難しい部分もあつたと思えます。 ・親の会の具体的な活動内容や今後の予定、見通しがもてるように事前にわかりやすく伝えてほしい。	親の会と連携しながら楽しく交流したり、共に学び合う場をつくっています。様々な取り組みがありますが、目的や意味をわかりやすく、また先の見通しを持って持てるような共有の仕方の工夫を検討していきます。	
16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	18	2		1	・迅速に対応されている。	相談の対応について体制を整え、登降園時や電話、来所、連絡帳などからタイムリーに相談につながるよう努めています。今後も迅速かつ丁寧に対応できるよう努めます。		

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	20	1			・配慮されている。	今後もよりよい関係を築きながら、情報伝達のための配慮に努めていきます。
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	19			1	・毎月丁寧に発信されている。	大きな行事は学期の初めにお知らせし、毎月のおたよりに翌々月の行事予定を記載して発行しています自己評価の結果についても公表しています。今後も必要な情報を早めに開示していくように心がけていきます。
	19	個人情報の取扱いに十分注意されているか	19	1		1		引き続き、十分注意して取り扱います。
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	18			2		各マニュアルを作成し、掲示しています。全保護者へ通知できるように努めます。今年度は防犯訓練を保育園と合同で実施しました。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	16	2		2	・避難訓練に参加した事がないので、あまり把握していません。	法令に従って訓練を実施しています。訓練は毎月子どもと職員だけで行っています。保護者の方にも知っていただけるように努めていきます。また親子グループは、子どもが不安にならないように配慮した上で実施していきます。
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	20	1			・休日には「なんで今日りんくくないの？」と言うほど毎日楽しく通園しています。 ・とても楽しみにしていて、休みの日も「りんく行く」と言っています。	これからも子どもの願いを大切に、子どもたちにとって、安心して自分を出し、楽しくあそびながら成長発達を促せる場となるよう努めていきます。
	23	事業所の支援に満足しているか	20	1			・子どもの成長・変化が目に見えて、喜んでいます。 ・コロナが落ち着いたら降園時間が戻ることを願っております。 ・満足しています。 ・いつもありがとうございます。	今後もりんくの取り組みについて丁寧に伝えていくとともに、よりよい「発達支援」「家族支援」「地域支援」を目指していきます。今後もりんくに対する意見や要望をだしていただけるとうれしいです。

○ この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

令和4年2月吉日

関係者各位

むぎのめ子ども発達支援センターりんく  
園長 大迫 より子

## 「児童発達支援自己評価」(事業所向け)の結果について(報告)

梅花の候、皆様におかれましては、ますますご健勝にてお過ごしのことと拝察いたします。

さて、当事業所における「児童発達支援自己評価(事業所向け)について自己評価を過日実施いたしました。

その中の環境・体制整備、業務改善、適切な支援の提供について等、職員間での情報交換の共有を行い、同じ方向を目指していることを、再度職員全体で確認することができました。

自己評価におきましては、『47:どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している』の項目において、本事業所としては身体拘束を行うことがありませんので回答としては「いいえ」となります。しかし、今後身体拘束が必要となった場合は、検討を行った上で児童発達支援計画に記載し、保護者の了解を得て支援を行っていきます。また、どのようなことが身体拘束にあたるのかは、毎年実施している職員研修(虐待や権利擁護研修)の中に取り入れ、職員一人一人の理解の向上に努めています。

これまで通り、ひとりひとりの子どもの発達課題、発達段階に応じた生活とあそびの支援・集団作りについて、研修や実践検討などの学習を重ね、子どもたちひとりにひとりが力を発揮し、主体的に生活やあそびに向かうことができるような療育の中身づくりを目指していきたくと考えています。

今後も、様々な意見を聞く中で、職員・保護者(家族)共に理解を深め、子どもたちのより成長発達を願い、一歩ずつ取り組みをすすめながら事業所づくりをしていきたいと考えておりますので、これからも多くの方のご協力をお願いいたします。

事業所における自己評価結果(公表)

【児童発達支援】

公表：令和4年 2月 24日

事業所名：むぎのめ子ども発達支援センターりんく

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		各クラスの部屋の広さは、クラスの人数に対し、基準以上の広さを確保しています。活動内容に応じて、プレールームや園庭等を活用しています。	
	2	職員の配置数は適切であるか	○		職員の配置基準以上の職員数を配置しています。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○		各クラスの子どもの実態や生活導線に応じて、子どもの主体性が促されるような環境設定を大事にしています。室内はバリアフリー(段差なし・手すりあり)です。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		療育終了後に、各クラスやプレールーム、トイレ、椅子、玩具等毎日清掃・アルコール消毒や安全点検を行い、安心・安全な環境づくりにつとめています。感染症対策として、オゾン発生器を各部屋に設置しております。	親子グループ用のトイレへの衛生備品(ウェットティッシュ・スプレー)の置き場所がわかりやすく、また使いやすいように工夫したいと思います。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○		全職員で課題を共有し、業務改善に向けての検討や情報共有に努めています。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		保護者向け評価表や意見箱、運営委員会、親の会での要望・意見、個別面談や日常的なやりとり(生活記録表等)等での要望・意見を、すぐに職員間で共有し、業務改善に努めています。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○		毎年、保護者向け評価表や運営委員会等での意見も踏まえ、業務改善に向けた話し合いを行っています。また、評価結果においては法人ホームページに公表しています。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○		法人で定期的に行い、必要に応じて改善につなげています。また、行政の実地指導を受け、指摘事項等があった際には改善に努めています。また公開療育や実習生来所の際の意見も参考にしています。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		事業所内研修や法人研修、外部研修へ参加できるように、年間計画を立てて取り組んでいます。計画以外の外部研修を周知したり、ケース会議にあわせて学習会を行うなど、タイムリーに学ぶことも大事にしています。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		児発管を中心に、保護者や相談支援専門員からの聞き取りや担当保育士、専門職からの意見や発達評価をもとに、分析・検討の上、支援計画を作成しています。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		KIDS、新版K式発達検査等、標準化されたアセスメントツールを使用しています。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○		支援計画の中に、発達支援・家族支援・地域支援の各項目において、子どもにとって必要かつ具体的な支援の内容の計画作成に努めています。個別支援計画策定会議を実施し、職員間で意見を出し合いながら、支援の内容を検討しています。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○		職員間で支援計画に沿った支援の共通理解に努めています。定期的にモニタリングを行い、支援計画に沿った支援が行われたか振り返りを行っています。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		年間、月、週、当日、行事など、担当職員を中心にチームで療育内容や支援の在り方について検討しています。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		年間計画や毎月の活動計画において、療育内容を検討しています。季節や生活文化を感じられる内容や子どもの実態に即した療育内容の工夫を行っています。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	○		集団活動を基本としながら、その中で個々の発達課題に即した個別の支援を取り入れており、支援計画を作成しています。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		指導案を基に、前日まで大きな方向性を共通理解し、当日の支援開始前に実践に入る職員間で活動内容や支援の内容の細やかな確認や役割分担等の打ち合わせを行っています。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		療育終了後に各クラスごとに、翌日の活動や支援につながるよう打ち合わせを行っています。参加できない職員については、申し送りを行っています。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		日々の子どもの様子を毎日記録に残しており、子どもの実態、変化、具体的な支援等、今後の支援につながる内容を記録することを心がけています。	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○		支援計画に沿って、保護者と現状を話し合い、支援の方向性を検討しています。		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		基本的には、児童発達支援管理責任者が出席していますが、ケースによっては、副園長、担当職員も出席しています。	
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○		例年は地域のネットワーク会議に参加したり、地域の事業所を対象とした連携会議を開催している。ケースに応じて事業所から関係機関に働きかけるなど個別の連携も図っています。	コロナウイルス感染防止のため、会議の開催が思うようにできない状況が続いていますので、そのような中でも連携や共有ができるよう努めます。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか			該当見なし	
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか			該当見なし	
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		併行通園先の入園前の体験活動や、園との連携会議、日常の電話等での実態把握を通して、情報共有、相互理解を図っています。	
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		北ネット会議や各学校との連携会議へ参加し、情報提供をはじめ支援の方向性についての相互理解を図っています。また、事前の体験活動や卒園後も必要に応じて訪問、連携会議を実施しています。	
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		研修会や連携会議、公開療育等へ積極的に参加し、連携及び学びを深めています。	
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○		認可保育園が隣接しており、園の方針としてインクルーシブ保育を目指しています。現段階では、日常的に園庭を共有してあそびや合同行事の開催など日常的に関わる機会があります。年長児は交流保育にも取り組んでいます。	
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○		園長が子ども部会に所属し、積極的に参加できるよう努めています。	
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		日々の生活記録表のやりとりや連絡帳、活動後の保護者への引継ぎの際に、家庭での子どもの様子を把握し、こちらからは療育の様子や支援の内容について伝えています。保護者との連携のもと、家庭の様子や子どもの変化をタイムリーに把握し、今後の支援につながるよう努めています。	
31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っているか	○		定期的に子どもの発達や関わり方についての学習会や交流会を実施しています。今年は外部講師によるリモート講演会を実施しました。他にも親の会活動、法人家族会活動もあり、よりよいつながりがあります。		
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		体験時や契約時に療育で大切にしていることや活動内容、利用料についてわかりやすく説明できるよう努めています。また、不明な点があった際にはその都度、確認・返答をするようにしています。	
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○		保護者に支援計画や支援内容について説明・共有を行う時間も設け、保護者からの同意を得た上で支援を行っています。	
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		定期的な面談以外にも、電話や来所による相談など随時対応できるようにし、タイムリーに解決ができるように努めています。また、月2回保健師による個別相談の時間も設けています。	
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		親の会と連携しながら、楽しく交流したり、共に学び合う場を設けています。法人の家族会や県父母の会への参加もその時間子どもの保育をする等、協力しています。親の会だよりの作成のサポートも行っていきます。	親の会の年間の活動内容やそれにむけた準備等のわかりやすい周知方法や、見通しが持てる取り組み方を一緒に考える等、今後もサポートに努めていきます。
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		相談や申し入れは迅速に対応できるように体制をつくっています。相談窓口や体制については、契約時に説明を行い事業所内に掲示しています。事業所内で対応できない場合は、法人や関係機関、行政につなぎでできるだけ対応に遅れが生じないように	
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		毎月りんくのおたよりを発行しています。月ごとの活動内容や行事予定などをお知らせしています。毎月の運営委員会にて実践報告を行っています。	
	38 個人情報の取扱いに十分注意しているか	○		関係機関との情報交換など個人情報の取扱いについて保護者に契約時に説明し同意を得ています。個人情報の取扱いには十分気を付け、具体的な場面場面でのように対応するかを職員間で共有を徹底しています。	
	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		個々の子どもの実態から必要な支援(手作り絵本といった具体的なものも含め)を行い、専門職のアドバイスも受けながら手立てを工夫しています。	
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○		法人で行う行事(フェスタなど)には、地域住民の方々に参加いただいています。また田んぼ活動では、地域の方々に声をかけていただくことも増えています。また学生ボランティアや実習生等の受け入れも行っていきます。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○		各種マニュアルを作成し、職員間で共有しています。また、いつでも手に取って読めるように掲示しています。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		毎月地震や火災を想定した避難訓練や消防署立ち合いによる避難訓練を実施しています。また、隣接保育園との合同避難訓練や豪雨・台風を想定した非難訓練も実施しました。	低年齢児の親子グループの避難訓練については、不安感を持ちにくい形で実施できるような工夫を検討していきます。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○		契約時に服薬状況や既往歴など書面で確認し、年2回の園内健診時にも予防接種や服薬状況を確認しています。てんかんや発作のある子は、必要に応じて医療と連携し緊急時の対応ができるようにしています。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		契約時に食物アレルギーの確認を行っています。アレルギーのある場合は、医師の診断に基づき、保護者と栄養士と話し合い対応しています。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		朝の打ち合わせ時や職員会議、療育後のミーティング等でヒヤリハット事例にちて報告や話し合いを行っています。ヒヤリハット事例が発生した際は、報告書を作成し、全職員が確認できるようファイリングしています。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		虐待防止に関する外部研修へ毎年参加し内部研修で学びあう機会を設けています。人権についての学習も定期的に行っています。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか		○	身体拘束を行うことは、これまでに前例がありませんが、どのような場合に身体拘束が必要になるのか等職員間で学習を通して理解を深めています。	

○ この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

○ 「はい」、「いいえ」の欄は、数を記入するのではなく、職員による自己評価結果を踏まえ、職員全員で討議した結果について回答すること。(該当する方に○を記入)